

# 県中教研 音楽部会だより

第 40 号

発行日 令和7年3月  
発行所 富山市千歳町1-5-1  
富山県中学校教育研究会  
編集責任者 松坂 成規  
題 字 金山 泰仁 先生

## 「個に応じた指導」の充実に向けて

指導主事 小川真紀子

本年度、学校訪問研修や研究会等で、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考・判断し、表現する生徒たちに出会うことができました。鑑賞の授業では、生徒が義太夫節の特徴を感じ取ろうと、三味線の音色や旋律に注目して繰り返し鑑賞したり、義太夫節の言葉に着目し言葉と三味線の相乗効果について考え発言したりと、それぞれの方法で追究し、表現する様子がみられました。また、一人一人が義太夫節に見いだした音楽表現のよさを持ち寄り、共有することで学びを深めていく姿も印象的でした。

中学校音楽科では、個々の生徒の音楽表現に対する思いや意図を、実際に歌唱、器楽、創作で表したり、生徒が個々に価値を見いだしながら音楽のよさや美しさを味わったりする資質・能力の育成を目指しています。中学校学習指導要領解説には、目標の冒頭に「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」という文言があり、音楽科の学習が「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」行われることが前提となっていることを示しています。「幅広い活動」とは、多様な音楽を教材として扱うことにより、生徒一人一人の個性や興味・関心を生かした音楽活動が行われることを意味しています。そのためには、生徒が多様な音楽活動を通して個性を発揮できるよう、音や音楽に触れる場面を充実させることが大切です。「幅広い活動」の中には、独唱、重唱、合唱のような表現形態、個人、ペア、グループといった学習形態も含んでおり、その中で音楽表現を高めたり音楽を聴き深めたりすることも考えられます。

教師は生徒の特性等を十分に理解して指導を工夫することが求められます。生徒がより豊かに、個々の感性を働かせながら思いや意図をもったり、音楽の価値を見いだしたりできるよう、今後さらに個に応じた指導の充実を図っていただきたいと思えます。

(西部教育事務所)

## 「指導と評価の一体化」を図るために

県部長 松坂 成規

本年度は、音楽科で身に付けさせたい資質・能力を育成するための指導の在り方について、また生徒の学習改善や教師の指導改善を図るための学習評価の在り方について焦点をあて、研究を進めてきました。研究大会では、「『指導と評価の一体化』に向けた授業改善」のテーマのもと、創作及び鑑賞の研究授業が行われました。

創作の研究授業は、音楽制作用Webアプリ「カトカトーン」を用いて、生活に役立つ二部形式の旋律を創作する学習活動でした。教師が生徒の実態を把握し、適切な創作のルールが示され生徒全員が旋律を完成させていました。また、それぞれがつくった旋律を基に、生徒が知覚と感受との関わりについて考え、音楽を介して気付いたことを共有したり共感したりする姿から、これまでの生徒の学習改善や教師の指導改善の積み重ねが生徒の姿に結び付いていることを実感することができました。

令和3年度からのGIGAスクール構想により、一人一台端末が整備されて以来、音楽科においても様々な活用がなされ、授業で活用できるアプリケーション等も充実してきています。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のための授業改善に向けたICT機器の活用方法についても様々な取組の工夫がなされるようになっており、音楽科においても、生徒一人一人が自分に合った学び方を選択したり、他者の考えを参考にしたり意見交換したりしながら学習を進めていく展開が必要です。

音楽科の表現活動において、音素材や楽器によってできることはこれまでどおり大切にしながらも、情報を収集したり、整理分析したりすることに利点があるICTを活用した授業改善を進めることによって、生徒の創造性を育んだり、情報活用能力を一層培ったりすることにもつなげ、音楽とより豊かに関わることのできる生徒を育てていくことも大切であると考えます。

(小・蟹谷中)

# 第68回 研究大会報告

幅広い音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。  
— 「指導と評価の一体化」のための授業改善 —

## 東 部 地 区

(黒・明峰中)

島香織教諭が、第3学年で「生活に役立つ二部形式の旋律を創作しよう」という学習課題の下、技術・家庭科の授業で制作した目覚まし時計のアラーム音を創作する授業を行った。

生徒はWebアプリケーションを活用して主体的に創作活動に取り組み、順次進行や跳躍進行等の音楽用語を用いながらグループで助言し合っていた。第1学年からの学びのつながりや積み重ねができる題材構成の大切さや、生徒の実態を踏まえ、既習内容を関連付けて課題や条件を設定することの必要性を再認識することができた。また、創作過程の旋律と振り返りを1枚のワークシートに収めることで、生徒は作品完成までの見通しをもって授業に臨むことができていた。併せて教師にとっても、指導と評価を一体化させるという意味において有効であった。

協議会では「指導と評価の一体化に向けた授業改善」のテーマの下、AとBの評価で迷うワークシートについて、それぞれの考えを伝え合った。評価の在り方について考えを深める時間となった。

古田香織指導主事(東部教育事務所)からは、「深い学びにつなげるための生徒同士の協働的な学習方法について、さらに研究を進めていく必要がある」「学習評価は、生徒の学習状況を捉えて指導改善に生かすためにある。C評価になると思われる生徒には、どのような働きかけが必要なのかを生徒側の視点で考えていくことが大切である」との助言をいただいた。

澤田 緑 (下・朝日中)



## 西 部 地 区

(高・南星中)

「太夫と三味線が2つ合わさることの魅力について考えよう」という学習課題の下、増田亜紀教諭が授業を行った。

指導と評価の一体化の解明に当たり、授業には以下の工夫が盛り込まれていた。①3時間分のワークシートがセットになり、振り返りや見直しをもちやすかったこと。②聴きとりにくい三味線の音に耳を傾けさせたことで、太夫と三味線をそれぞれ聴き分けて、そのよさに気付けるようにしたこと。③グループ活動において、ジグソー学習を活用して意見交換しながら深まりのある話し合いができたこと。



部会協議では指導と評価の一体化に向けて、題材を通して一つのワークシートにしたことや、ICT機器をどう使用してまとめに向かうかなどをテーマとして話し合った。小川真紀子指導主事(西部教育事務所)からは、本時の学習課題に迫る場面を選択し、その特徴をより深く味わうことのできる指導計画であったと価値付けていただいた。また、本時は太夫と三味線を合わせて考える点が重要であり、最後に「また音楽を聴いてみよう」という時間をもつことができれば、更に太夫と三味線が二つ合わさることの魅力について考えが深まったのではないかと助言をいただいた。

授業力向上アドバイザーの江田司先生からは、「指導と評価の一体化のための授業改善」「評価の三層構造」等、音楽部会の研究テーマに迫る内容をご教示いただき大変参考になった。また、本時を例に挙げ、正解が予想されにくい学習課題を提示することが大切であり、これまで何度も試して授業を行ってきたことで、生徒の思考を予測して授業を構想することができていたという助言をいただいた。事例研究が大切であり、これが指導と評価の一体化につながるものであることを確認する機会となった。

山崎 大介 (砺・出町中)

## 「音楽教育推進協議会『音楽科特別講座』」に参加して

黒部市立清明中学校の米多彩教諭による選択講座「『私の授業』～「つなぐ」を大切にしたい鑑賞の授業～」に参加した。令和5年度全日本音楽教育研究会全国大会富山県大会で発表された授業内容を織り交ぜながら、授業を組み立てていく中で心掛けておられることについて、大変丁寧に教えていただき学ばせていただいた。日頃から、「全員参加」できる授業づくりを意識しておられるということ、生徒自身が音楽を聴き「分からない→何度も聴きたい」と思えるように授業を仕組んでおられることを実際の授業を行うような雰囲気の中で話しておられた。

私がお聞きした「授業の手立て」の中で心に残ったことは、「生徒をよく観察する」ということだ。曲が変化したときや、曲が終わったときの生徒の表情等をよく観察しながら、何か言いたそうな生徒を指名して、考えをつないでいくという手法を大切にしておられた。基本的なことだが、なかなか簡単にできることではないと思ひ、やはりそこは人間観察力が大切なのだと思った。隣におられた先生も、「米多先生の人柄のよさが伝わってくる。先生の授業を受けてみたくなる。」と話しておられ、私も温かい生徒との関わりのお切さが感じられる素敵な講座だったと感じた。

河邊真美子（小・石動中）

音楽教育アドバイザー・作曲家の古宮真美子先生による講座「楽しく音楽学習を進めるあの手この手～歌唱編～」を受講した。古宮先生が生徒のためにつくられた学校現場発の歌唱曲を歌いながら、日々の授業に役立つ常時活動や歌唱指導のポイント、指導法を実技形式で教えていただく講座であった。

常時活動でのリズム指導の紹介があった。リズムパターンがあり、三連符を「バナナ」、シンコペーションを「コロッケ」等、リズムを言葉に置き換えて感じ取らせる。それを常時活動に留まらず、歌唱指導等で応用していく。歌唱活動では、身体表現を伴った自作の歌唱曲を用いた指導法が紹介された。「One Team!」、「ともだちになろうよ」が印象深い。ペアになり、曲の途中にハイタッチ等の手遊びをして相手と拍の共有をする。複雑な部分があるが、ペアで協力しながら何度も歌い、やがて拍子感のある歌い方へ変わった。また、歌の最中にうちわでメッセージを伝える指導法は素敵だった。何よりも、前向きな気持ちになる歌唱曲は全て魅力的だった。

先生の指導は歌唱曲で感受性や共感力を育み、音楽を通じて自己表現力や協調性を高めるもので、実践するのが待ち遠しくなる講座であった。

米多 彩（黒・清明中）

## 令和6年度 第66回関東甲信越音楽教育研究会 新潟大会（長岡大会）に参加して

### 【大会主題】 出会い かかわり ふかめる

～他者と協働しながら、思いをもって豊かに表現する姿を目指して～

大会は現地参加とオンデマンドによるハイブリッド型で開催された。大会2週間前に授業動画が大会ホームページに公開されていたので、事前に動画を視聴してから大会に参加することができた。中学校部会では、3つの授業動画が公開されていたが、ここでは鑑賞の授業についてご紹介する。

2学年の鑑賞領域ではベートーヴェン作曲「交響曲第5番ハ短調」を教材とし、楽曲全体に現れる動機から作曲者が伝えたかった思いについて考える活動を通して、音楽のよさや美しさを味わうことをねらいとした授業であった。生徒は前時までに学習した作曲者の生涯と重ねながら、音楽的

な特徴から作曲者が伝えたかった思いを想像し、楽曲の魅力について感じたことを意見交換していた。協議会では、ワークシートや一人一台端末を活用した考えのたせ方と意見交流の方法やその効果について意見交換がされた。

本大会に参加して、ねらいを明確にし、音楽的な見方・考え方を働かせ、思考、判断し、表現する一連の学習過程を充実させることの大切さを再確認することができた。ここで得られたことを今後の自分の授業に生かすとともに、中教研の研究にも反映させることができればと思う。

荒木 学（富・興南中）

# フレッシュさんから

## 「初志貫徹」

中学校の音楽科の教員になり、もうすぐ1年が経とうとしている。大規模校で勤務することとなり、たくさんの生徒への対応で大変なことも多いが、その分学びがたくさんあり、とても充実した日々を過ごしている。音楽の素晴らしさをより多くの生徒に伝えたいという思いで授業や部活動指導を行い、自身にとっても音楽の素晴らしさを改めて感じる場面がたくさんあった。

その中で一番印象に残っているのは、合唱コンクールである。合唱コンクール期間中の音楽科の授業や放課後の合唱練習では、音楽が得意な生徒も苦手な生徒も一生懸命に歌っている姿が見られた。リーダーを中心に課題を見付け、クラス一丸となって熱の入った練習をする様子を見てみると、私の心にも火がついたような感覚があった。



生徒の熱意に応えるために、授業がより充実したものになるよう、日々授業内容や指導方法を改善していくことで、さらに熱心に歌う生徒が増え、合唱もよりよいものになっていった。本番では、どのクラスも練習の成果を発揮し、力を合わせて歌いきることができていた。審査員席から合唱を聴きながら、音楽の素晴らしさである「心を一つにできること」や「人の心を動かす力があること」を改めて実感することができた。

教員には様々な業務があり、大変な職業だと感じることもある。しかし、大変な中でも、生徒の頑張る姿や成長する姿からは活力を得ることができる。教師の頑張りに対して、生徒がさらに応え

てくれるところに、教員のやりがいがあると思う。「多くの生徒に音楽のよさや素晴らしさを伝えたい」－教員を志したときの気持ちを忘れず、生徒のための授業づくりを心掛けながら、日々教員として研鑽を積み、生徒と共に成長していきたい。

富山市立堀川中学校 伊東 詩織

## 「生徒から学ぶ」

教員になり1年が経とうとしている。初めて勤務する日、手が震えていたことを覚えている。

音楽科の教員として大きな行事は合唱コンクールだった。私は「音楽の魅力を伝えたい」「音楽を通して生徒が自分の可能性を感じてほしい」と思い教員になった。だから私にとって合唱コンクールは大きなチャンスであると考えていた。練習が始まった頃は、教員だから教えなければいけないという思いで頭がいっぱいだった。

しかし実際は違った。楽譜を読むことができ、歌に自信がある生徒が中心となって自分たちで練習を進めていた。パートリーダー同士でどのように表現したいのか、話し合っていた。教師が合唱の魅力を伝えないと気付いてもらえないのではないかという私の不安を拭い去る堂々とした合唱が当日体育館に響いた。「生徒から学ぶ」ことを、この行事で実感することができた。

一人一人の全力が重なったとき、人の心を打つ音楽になるということを改めて生徒から学んだ。この学びを忘れず、これからも音楽科教員として音楽の魅力を伝え、生徒と共に感じていきたいと思う。

高岡市立芳野中学校 勤桑なつき

